

# 令和4年度 与進中学校 学校評価

## 令和4年度の取組

## 生徒の実態



学校教育目標「共に自立をめざす生徒～見つめ・高め合い・認め合う～」実現のためには、その土台となる学校全体に漂う穏やかで和やかな雰囲気が必要であり、生徒同士が互いに認め合える空気感ともいえるべき「望ましい学校風土」が重要である。

そのような「学校風土」を築き上げるため、教職員は生徒理解に努め、様々な支援や指導において、生徒自らが「主体的に・対話的に・深く考える」ことができる場面を設定し、「温かく丁寧な生徒指導」を積み重ね、子供との良好な信頼関係を築いていく。そして、日々の「楽しく分かる授業」と「元気に熱中できる行事」の実践を通して、生徒が自己と他者との関わり合いの中で互いに認め合いながら、これからの時代を幸せに生き抜くための考え方や力を身に付けることで、学校教育目標の具現化を図っていく。

- ・素直で明るく、穏やかな生徒が多い。
- ・行事や部活動に熱心に取り組む生徒が多い。
- ・基本的な生活習慣が身に付いておらず、携帯電話やゲーム等を夜遅くまで使用し、昼夜逆転してしまい遅刻や欠席する生徒が複数名いる。
- ・授業に真面目に取り組む生徒が多く、基礎基本の問題には一生懸命に取り組む反面、難易度が少し上がると諦めてしまい粘り強さに欠ける。
- ・話し合ったことをもとに自分の考えを広げたり、深めたりすることを苦手とする生徒が多い。

## 具体的な取組

- 2本柱「楽しく分かる授業」「元気に熱中できる行事」の実現に向けた取組
- 【生徒】
- 「3分前入室→2分前着席→1分前黙想」
  - 授業目標の設定と振り返りの充実
  - 自分で考える時間、仲間と支え合ったり、考えを練り合ったりする時間、自分の考えを再構築する時間の充実
- 【教職員】
- 学校運営組織の適正化
    - 教務・外務部、望ましい学校風土G、楽しい授業G、元気な行事G、事務部の5つのグループ編制とのりしるを意識した連携の重視
  - 校内研修（教科部会・OJT）の充実
    - 「新たな学習評価」の理解と授業実践
      - ・学習評価の正しい理解
      - ・学習方法や指導方法の工夫（主体的に、対話的に、深く考えるための）
    - 情報教育（教育の情報化）への対応
      - ・生徒用学習タブレットの活用
      - ・Meet 放送の活用（式・集会等々）
      - ・さくら連絡網の有効活用
  - 業務の重点化・スリム化
    - ペーパーレス化（会議資料・保護者宛文書）
    - PTA 役員選出・PTA 活動の見直し
    - 計画訪問等の指導案の簡略化

## 「学校評価アンケート」より

アンケート項目	生徒	保護者	教職員
学校として、学校教育目標「共に自立を目指す生徒」の育成ができた。	89	80	92
私（先生）は、「楽しく分かる授業」が実践できた（～していた）。	88	67	85
学校として「元気に熱中できる行事」を実現することができた。	92	91	92
私（先生）は、様々な場面で生徒に主体性をもたせ、対話的に関わり、深く考えるように支援・指導することができた（～していた）。	91	75	87
学校として、「望ましい学校風土（穏やか・和やか・認め合う・話し合う空気感）」が醸成できた。	86	77	89
私（先生）は、「温かく丁寧な生徒指導」ができた（～していた）。	88	79	90
私（先生）は、生徒との良好な信頼関係が築けた（～築けていた）。	90	83	89
学校として、「AY（あいさつの与進）」が実現できた。	94	85	62
生徒は、安心して楽しい学校生活を送っている。	92	89	100
【教職員のみ】私は、与進中学校がよりよい学校になるように、自分なりのアイデアを出し、実行できた。			67
【生徒・保護者】私（お子さん）は、目標をもって学習（授業）に取り組んでいる。	83	64	
【生徒・保護者】私（お子さん）は、目標をもって家庭学習に取り組んでいる。	73	56	
【生徒・保護者】私（お子さん）は、学校行事や部活動等に、精一杯取り組んでいる。	66	92	

※数値は、「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせた割合である。昨年度より上回った場合は赤色、下回った場合は青色、同じ場合は黒色で示している。黄色の色板は、家庭学習を除いた学習（授業）に関する項目である。

## 学校評議員より

- ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザへの対応に苦慮しつつも、実施方法等の創意工夫により「文化発表会」と「体育大会」が開催できた。また、授業参観もできたことに大きな意味がある。
- ・生徒、PTA、地域のつながりを大切にしながら、学校教育活動を盛り上げていくべきである。
- ・生徒が「安心して楽しい学校生活を送れる学校」が何より。家庭での協力や取組も必要である。
- ・発達支援に関する取り組みは、とても大切である。

## 成果・課題・改善策

学校評価アンケートの回答及び学校評議員のご意見から・・・

- 【成果】学校生活の基盤ともいえる「望ましい学校風土」に関する「生徒は安心して楽しい学校生活を送っている」という項目では、92%の生徒、100%の教職員が肯定的に捉えている。昨年度より2%下がったものの89%の保護者も肯定的に捉えている。さらに、「『元気に熱中できる行事』を実現することができた」という項目では、生徒・保護者・教職員の90%が肯定的に捉えている。また、8つの項目において昨年度よりも肯定的に捉えている保護者が多いことが見て取れる。
- 【課題】青色の数字で示した項目及び太枠の項目（肯定的な意見が70%以下）が課題であると考えられる。「楽しく分かる授業」の実践については、昨年度よりも数値が上がったとはいえ保護者の回答が依然として70%を下回っている。これは、家庭での生徒の発言や定着度診断等のテスト結果に加え、春の授業参観が開催できなかったことで授業をご覧いただく機会が2月までなかったことも原因の1つとして考えられる。
- 【改善案】
- ・2月に開催した授業参観のように、春（5月）も実施方法等を工夫すること学校公開日を設定し授業の様子を保護者に公開する。
  - ・生徒の個々の実態に応じた家庭学習に関する支援や助言を行い、授業を含めた学習への前向きな態度を称揚できる機会を増やす。
  - ・今年度同様、生徒会が中心となり様々な場面での挨拶の重要性や意味について考え理解し実行できるように促し、生徒がAY（あいさつの与進）の伝統を受け継いでいけるような手立てを講じる。